

# 胃がん・肝細胞がん予防サーベイランス体制検討ワーキンググループ

(平成 30 年度)

## 胃がん・肝細胞がん予防サーベイランス体制検討 WG 報告書

広島県地域保健対策協議会 胃がん・肝細胞がん予防サーベイランス体制検討ワーキンググループ

WG 長 茶山 一彰

### I. はじめに

胃がん、肝臓がんは、本県におけるがん罹患でそれぞれ 1 位と 6 位を占めており、全国がん登録による部位別がん罹患数でも、胃がんは男性で 1 位、肝臓がんは 5 位に位置づけられる重要な疾患である。両疾患は、ヘリコバクター・ピロリならびに肝炎ウイルスにより惹起される「感染症」であることが明らかになっており、これらの感染状態を把握することは、がん高リスク群の特定に有用であり、感染を制御することは胃がん、肝臓がんの一次予防に直結するといえる。

広島県においては、2018 年 3 月に広島県第 3 次がん対策推進計画を策定し、「がんの予防・検診」を主たる分野として記載し、具体的な対応として、肝炎ウイルス感染者を早期に発見し、早期治療につなげることが重要としている。これまで本県では、健康増進事業としての肝炎ウイルス検査（実施主体は市町で対象は 40 歳以上）ならびに特定感染症検査等事業による肝炎ウイルス検査（実施主体は県と保健所設置市）を実施してきた。しかし、若年者を含めた住民台帳ベースでの肝炎ウイルス感染に関する疫学調査はなく、その実態は明らかでない。

胃がん対策においては、厚生労働省が定める「がん予防重点教育及びがん検診実施のための指針」にヘリコバクター・ピロリが胃がんの原因であることが記載され、ならびに関連学会からの勧告により、胃がん対策としてのヘリコバクター・ピロリ感染診断が周知されているものの、胃がん一次予防に重要な若年層への対応は限定的である。佐賀県をはじめ全国各地では若年層を対象とするピロリ感染検査ならびに陽性者で希望する者への除菌治療を行っている。本県においては、感染症のスクリーニング体制は全く確立しておらず、県民への周知も十分でない。とりわけ、若年層に対するスクリーニングと治療介

入の取組は明らかに立ち後れている。

これらの背景をふまえて、本県における今後の取組として、①県民に対する啓発活動や②住民台帳ベースでの疫学調査、③消化器系感染症によるがんの発症を予防するためのガイドライン作成が提案された。

### II. 胃がん・肝臓がん予防サーベイランス体制の構築：第 1 回 WG（平成 31 年 3 月 27 日，広島県医師会館）

#### (1) 肝炎ウイルス対策について

広島県業務課より、本県における肝炎ウイルス検査の実施状況の説明があった。本県では、平成 4 年から HCV 検査をモデル的に実施しており、平成 14 年度から 19 年度までは国が C 型肝炎等緊急総合対策として実施している老人保健事業などとして、平成 20 年度からは各市町の努力義務である健康増進事業として肝炎ウイルス検査を実施している。また、保健所の検査として実施する特定感染症検査等事業や、職場での健康診断として肝炎ウイルス検査が行われる場合もある。今後、検査を受けていない県民や検査を受けているがその自覚のない県民に向け、啓発と受信勧奨をすべきとの意見が挙げられた。

#### (2) ヘリコバクター・ピロリ感染対策について

広島県において、これまで県が主導してピロリ菌感染対策を啓発したことはなく、学会での市民公開講座を通じてのみ県民に情報提供が行われている。市町レベルでは、海田町や安芸太田町など限られた地域でピロリ菌検査が実施されているが、十分な啓発が行われているかは明らかでない。

ピロリ菌検査と除菌治療については、いくつかの地方自治体が若年者感染対策を実施しつつあるものの、小児科関連学会からは、小児健常児に対しての介入に否定的な見解が示されており、本県においては、まず 15 歳以上の県民を感染対策対象者と考える

べきと思われた。

### (3) 実際のサーベイランス体制案について

本県においては、ピロリ菌感染対策に加えて、肝炎対策も併せて行うことができる「血液検査」を実施することが有効と思われた。具体的な対象者として、血液検査を伴う健康診断が行われ、除菌治療に保護者の同意取得が不要となる大学生を挙げる意見があったが、現在は大学において血液検査が行われていないとの情報もあり、心電図などの学校健康診断と併せて血液検査を実施できる可能性のある高校1年生が候補として挙げられた。尿検査・便検査により高校1年生を対象にピロリ菌検査を実施している京都府においては、まずモデル校で検査を開始し、徐々に府内全域に広げる形をとっており、本県においてもまずモデル校を選定して事業を開始する手順が妥当と思われた。高校生を対象とする血液検査が実現する場合、全国初の取り組みとなる。モデル校選定に向けては、教育委員会を通じてアプローチす

る案と学校医を通じてアプローチする案が挙げられたが、次回会議までに現実的に可能なアプローチの手順を広島県で確認し、リストアップいただくこととなった。

また、垂直感染を防ぐ観点から、関心や知識のないハイリスク者に対する啓発・検査実施も必要と思われ、次回会議までに広島県から各市町の意向確認を行い、意欲のある市町や具体的な啓発・検査実施案を挙げていただくこととなった。

## Ⅲ. ま と め

本県における胃がん・肝細胞がんの予防サーベイランス体制構築に向け、現状を共有するとともに、本県で今後取り組むべき肝炎ウイルス対策やヘリコバクター・ピロリ菌感染対策について検討した。明らかになった課題について、議論を継続し、有効なサーベイランス体制の確立に繋げていきたい。

広島県地域保健対策協議会 胃がん・肝細胞がん予防サーベイランス体制検討ワーキンググループ

WG長	茶山 一彰	広島大学大学院医歯薬保健学研究科消化器・代謝内科
委員	相方 浩	広島大学大学院医歯薬保健学研究科消化器・代謝内科
	伊藤 公訓	広島大学大学院医歯薬保健学研究科消化器・代謝内科
	應和 卓治	広島県健康福祉局薬務課
	加藤 勇人	広島県地域保健医療推進機構
	吉川 正哉	吉川医院
	田中 純子	広島大学大学院医歯薬保健学研究科疫学・疫病制御学
	久岡 桂子	広島市役所健康福祉局保健部健康推進課
	山口 浩央	広島県健康福祉局がん対策課
	山田 博康	広島県医師会
	横山 行男	横山内科医院
	吉原 正治	広島大学保健管理センター